

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 福島県立安達高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒964-0904
福島県二本松市郭内2-347

E-mail : adachi.h@pref.fukushima.lg.jp

Website : http://www.adachi-h.fks.ed.jp/

児童生徒数：男子 302 名 女子 377 名 合計 679 名
 児童・生徒の年齢 16歳～18歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

ユネスコスクール「持続発展教育 (ESD)」

福島県立安達高等学校

1 復興教育

東日本大震災後、自分たちの生活環境や日本の課題を分析しながら、現状を乗り越えるための教育活動を展開している。福島復興を期した取り組みとして始まったが、福島を取り巻く様々な問題は、1つの要因を解決しただけでは解決できないような複数の課題が絡み合った事象である。この点は、日本や世界が抱える課題の複雑性と類似しており、福島現状を解決する努力は世界の課題解決に通じる教育材料と考えている。



2 全校規模に拡大したユネスコスクール活動と持続発展教育 (ESD)

昨年度まで学年単位で実施していた「復興教育」およびESDが発展拡大し、今年度からは完全に学校全体の取り組みとなった。各学年で創意工夫しながら学習内容を開発し、3年間を見据えた系統的なカリキュラムに発展している。7月には全校生徒で学習成果を共有するための「ユネスコスクール公開発表会」を実施した。

- ・「情報」の時間を使ってのグループ学習 4月～7月 2学年全クラス

これまでの学習を踏まえてグループ学習・発表を行った。現状を認識しながら、理想とする未来とのギャップを考え、何が課題なのか課題を見つけ、その課題を解決するためにどのような考えや行動をとるべきかを議論しながら進めた。



- ・ユネスコスクール公開発表会 7月15日(火) 全校生徒679名

2年生全クラス、3年生選択クラスの「情報」の時間でのグループ学習によってまとめられた内容について、プレゼンテーション形式の発表会を実施した。各クラスで事前にクラス内発表をして代表グループを選出し、評価の高い内容を全校生徒の前で発表することで、課題解決の仕方などを全校生徒で共有した。特に3年間の学習を経験した3年生は、積極的な質問をするなど会場は大きな盛り上がりを見せ、建設的な意見が多く出された。



3 ESD 世界大会高校生フォーラム東北代表校および地域交流会実施

11月5日～8日に岡山市で開催された「ESD 世界大会」に東北代表校として4名の生徒が参加した。世界33カ国の高校生が一堂に会し持続可能な社会にするための討議を行った。関連行事として、11月4日には事前地域交流会を安達高校で行い、フランス・レバノン・バングラデシュ・ペルーの高校生が来校し全校生徒と交流をした。

4 今後の取り組み

現在、これまでの取組を検証し、次年度はより系統性を重視したプログラムとなるよう研究を重ねている。ESDを通じて、社会を取り巻く解の無い様々な事象に目を向けさせ、知識や経験を最大限に生かして最適解を探し出そうとする力を育成していきたい。グループ活動を通じて互いを理解し尊重する姿勢を育みながら、これからも生じ得る困難に対して決してあきらめない力を育成していけるようなプログラムにしていきたいと考えている。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()